

新春対談

川西市長

大塩民生 × 壮一帆

宝塚歌劇団雪組トップスター

川西出身の トップ2人が まちの魅力を語る

川西市 60周年 × 宝塚歌劇 100周年

24年に宝塚歌劇団雪組トップスターとなった川西市出身の壮一帆さん。昨年11月29日、市民文化賞を受賞しました。今年、川西市は市制施行60周年を、宝塚歌劇は100周年を迎えます。新たな一歩を踏み出すスタートの年に、壮さんと大塩市長、リードする2人のトップが「魅力」をテーマとした対談を行いました。



大切なのは「仲間」

時代を問わず共通するもの

大塩市長（以下市長）

新年あけましておめでと
うございます。

壮一帆（以下壮） おめ
でとうございます。昨年

は栄えある市民文化賞を
頂き、ありがとうございます
ました。

市長 こちらこそ、お忙
しい中、贈呈式にご出席

いただき大変感謝してい
ます。

今年、川西市は市制
60周年を迎えます。そし
て、宝塚歌劇さんは100周

年という節目を迎えます
が、その歴史ある歌劇団

のトップになるまででは
苦勞も多かったのでは
うね。

壮 そうですね。これま
で、多くの壁がありまし
た。ただ、誰にとっても、

困難や自分との闘いはあ
りますよね。

きっとそれぞれ壁の乗
り越え方がありと思いま
す。私の場合、大切にし

てきたのは、舞台に関わ
る皆さんはもちろんです

が、友人や同級生など、
仕事場以外で関わりのあ
る人ですね。これまで、
そういった方々の支えが
あったからこそ、やって
これたと思っています。

市長 おっしゃるとおり
ですね。「仲間」は本当
に掛け替えのないもので
す。私と壮さんは年代も
違えば、生きてきた環境
も違いますが、人と人と
のつながりの大切さ、そ
れは時代を問わず共通し
ているものではないかと
思います。



大塩民生 Oshio Tamio

川西市出身。昭和60年には川西青年会議所理事長を、平成7年から18年まで、川西市商工会副会長を務めた。18年川西市長に初当選し、現在2期目となる。

歴史があるのに現代的な川西
——川西の「魅力」についてはいかがでしょうか。
壮 今もずっと感じていることですが、川西は、歴史がある中、現代的なところがたくさんあるまじです。常に新しくなっているという印象が

あります。
市長 おっしゃるとおりです。川西にはいちじくや「清和源氏発祥の地」など、歴史的に誇れるものがたくさんあります。壮 「きんたくん」もいますよね。
市長 その「きんたくん」も源氏にまつわるキャラクターなんですよ。壮 そうですよ！

市長 川西には悠久の歴史があります。まちには四季折々の顔があつて、環境も良い。
能勢電車のほか、阪急電車やJRも通っていて、交通の便もとても良いところだと思います。日本でも有数のゴルフ場「鳴尾ゴルフ倶楽部」もありますし、その近くには「(仮称)川西IC」もできることになってます。

中では「かわにし 幸せものがたり」として、幸せをテーマにしています。何が幸せかはそれぞれ異なりますが、例えば「健康」などは共通しているのではないのでしょうか。このキーワードをまちづくりの中に組み込み、「老若男女誰もが健康なまち」と全国に誇れるようにしていきたいと考えています。
壮 皆さんに知ってもらうのは大切なことですね。宝塚歌劇団は女性だけの劇団で、女性が男性を演じる世界的にも珍しい劇団だと思います。だから、もっとグローバルにPRできたらと思いますね。今、中国や台湾、韓国といったアジア方面からもファンレターが届きます。アジア公演も行っていて、興味を持っていただいていることは確かです。活動の場を広げ、世界に羽ばたいていきたいですね。

まずは皆さんに知ってもらえるように、全国に川西のまちを押し出せるような施策を進めていきたいと考えています。今年度、第5次総合計画が始まりました。その

市長 期待しています。歌劇団も川西のまちも、皆さんにその良さを知ってもらうため、挑戦していかなければなりませんね。

川西市の将来

川西はバランスのいいまち
「魅力」に気付いている人も多い
全国に誇れるまちづくりを

川西のまちを押し出せる施策を進める

——大塩民生市長

宝塚歌劇団の未来

世界的にも珍しい歌劇団

グローバルにPRして

世界に羽ばたいていきたい

——壮一帆さん

仲間がいれば新たなことに挑戦できる

直接掛けてもらった応援の言葉
——川西での思い出は何かありますか。
壮 私、よく川西のお店に買い物に行くのですが、雪組のトップになった頃、お会計の時に「壮さんですね。頑張ってください」と言われて。もちろん、インターネットなどで買い物するのも一つだとは思いますが、そうやって顔を見て言っていたのは、とてもうれしいです。
少しさかのぼれば、宝塚音楽学校を受けるときに、願書を近くの郵便局に出しに行ったんです。対応してくださったのは無口な方でしたが、はんこを押しながら宛先を見て「頑張ってください」とおっしゃってくださいました。覚えてます。そのおかげで合格できたのかもしれない（笑）。
市長 そういう直接の「ふれあい」を大事にしてください。それはうれしいですね。
振り返れば「ふれあい」や「つながり」というも

大切にしてきた歌劇団の深い絆
——現在、川西市ではシタイプロモーションを進めていて、「魅力」という言葉がキーワードになっています。壮さんにとって宝塚歌劇団の「魅力」はどういったものでしょうか。
壮 「宝塚には、独特の深い絆がある」と退団し

た方がよくおっしゃいます。宝塚歌劇団では組単位で公演し、同じメンバーで同じ作品を創り演じるんですよ。その中で、お互いの良いところ、悪いところが自然に分かってくる。その上でお互いにフォローし合い、アドバイスをする。時にはぶつかり合いながらも、お互いを高め合える、そんな

な場所だと思いますね。
市長 なるほど。伝統的に大切にしてきたものなんでしょうね。
壮 ええ。仲間がいれば、何でも新たなことに挑戦できると信じています。今年宝塚歌劇は100周年を迎えますが、これからも、時代のニーズに合った発展をしていくことができればと思います。

壮一帆 So Kazuho

川西市出身。平成8年『CAN-CAN』で初舞台を踏み、同年花組に配属。13年雪組に組替えし、同年『愛 燃える』で新人公演初主演。18年花組に組替え。24年雪組トップスターに就任。26年6月宝塚大劇場公演『一夢庵風流記 前田慶次』／『My Dream TAKARAZUKA』に出演予定。

